

## 海外での社会貢献活動

世界57カ国に広がるジョンソン・エンド・ジョンソングループでは、世界各地における人々の健康なくらしの実現をサポートするため、主に5つの視点に基づき、それぞれの国や地域社会の課題解決に取り組んでいます。

### Women's and Children's Health 女性と子どもたちの健康

#### 中国・フィリピン 母親と子どもを救う安全なお産の推進プログラム

アジアでは出産によって母親と子どもの生命が危険にさらされている地域があります。中国 チベットでは妊産婦死亡率が中国平均の約10倍もあります。その主な理由は、地域全体が貧しいチベットの地方部では、ほとんどの女性が医療機関ではなく自宅でお産することにあります。フィリピンにおいては、出産の50%が医療機関以外で行われています。毎日およそ11人の女性が亡くなり、その4倍の女性が病気にかかっています。しかし、これはチベットやフィリピンに限ったことではありません。1999年ユニセフは安全なお産の推進プログラムをスタートしました。ジョンソン・エンド・ジョンソンからの寄付をもとに、自宅ではなく医療機関での出産を奨励する教育に力を注ぎ、さらに質の高い産科ケアを受けられる機会の向上をめざしています。



写真提供：UNICEF

### Community Responsibility 地域特有の問題の解決

#### インド Vatsalya孤児院

サンスクリット語で“Vatsalya”は親の愛情を意味する言葉です。インド ムンバイのVatsalya孤児院では、何十人もの子供たちが医療ケアスタッフの温かい愛情に包まれて育っています。ムンバイ中心街北部、ジョンソン・エンド・ジョンソンのオフィスからほど近いこの孤児院は、子どもの福祉を守る活動を中心とする信託基金Vatsalya Trust Mumbaiの創設に伴い、20年以上前に設立されました。現在、60人の子供を収容できる能力を持ち、新生児医療施設と医療スタッフも備え、孤児たちへのケアを提供しています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、Vatsalya孤児院の医療費や運営費用を支援しています。



### Access To Care 医療機会の提供

#### ガーナ 外傷治療の向上をめざすガーナ外科手術トレーニングセンター

西アフリカにおいて、外傷は重大なヘルスケア上の問題であり、主な死亡原因の一つです。そのため外科医への外傷管理トレーニングは不可欠です。2005年2月、International Aidとジョンソン・エンド・ジョンソン、そして西アフリカ外科学会(WACS)は、ガーナ外科手術トレーニングセンター(SSTC)を開設し、外傷の緊急治療をトレーニングするための先進的外傷手術管理(ATOM)コースをスタートさせました。現在西アフリカの外科医たちへの質の高いトレーニングによって、患者さんたちはより良い医療を受けることが可能になりました。



写真提供：Ghana Surgical Skills Training Center

### Advancing Health Care Knowledge 医療従事者の育成・教育支援

#### アメリカ 管理職看護師トレーニング

23年間にわたり、アメリカをはじめさまざまな国の管理職看護師のリーダーシップ能力を高めることに貢献してきたジョンソン・エンド・ジョンソン-Wharton Fellows Programは、アメリカで最も長く運営されている看護師管理教育コースです。アメリカでもトップレベルのビジネススクールの一つ、ペンシルバニア大学Wharton校において毎年3週間集中で行われるこの教育プログラムは、医療業界の急速な変化に対応できる高い管理能力を持つ管理職看護師を育成します。このプログラムの卒業生は約900人。2005年は、アメリカ、オーストラリア、カナダから参加した43人の管理職看護師が財務、経営、そしてリーダーシップコースを受講し、卒業しました。



### Global Public Health 世界的な保健問題への取り組み

#### インド Naz Foundation Trust 家族と孤児のためのケア

1994年インドに設立されたNaz Foundation Trustは、HIVに感染した子どもたちや家族、特に両親もHIVに感染し、医療的なケアを受ける経済的余裕のない家族に、家庭を基盤としたケアサービスを行っています。また、HIVに感染した孤児や、HIVに感染したために家族から見捨てられ、経済的に困っている女性たちを助けるためにケアホームを運営し、保護施設では孤児たちが十分な栄養と医療ケアと教育を受けて生活しています。ケアホームは外来患者へも治療やカウンセリングなど、治療のための全体的なアプローチによるケアプログラムを提供しています。2005年、ジョンソン・エンド・ジョンソンはケアホームと外来患者用施設の運営を支援しました。



写真提供：Naz Foundation Trust